

opack^{オーパック}めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



<http://www.opack.jp/>

～知と自然が共鳴する都市へ～

平成20年度 OPACK (財団法人九州大学学術研究都市推進機構) の活動展開

九州大学伊都キャンパスが開校して2年半、〈知の創造空間〉〈知のクラスター〉形成を目指す九州大学学術研究都市構想〉の実現に向けたまちづくりが加速しています。

九州大学の最先端の研究を基盤として、学術研究都市における産学連携の推進、企業・研究機関の誘致などに取り組む“OPACK”の20年度の主な活動をご紹介します。

研究ステータスのあるまちへ～ リーディング企業・研究所等の誘致

OPACKでは、伊都キャンパスで展開されている、水素エネルギー分野や、応用化学・ナノテクノロジー分野を中心に、企業・研究所等の誘致活動を推進して参りました。

水素エネルギー分野では、産業総合研究所の「水素材料先端科学研究センター棟」が昨年11月に完成し、燃料電池を核とする水素社会の実現を目指した世界規模の研究が進められています。また、応用化学分野では、伊都キャンパス入口に近い元岡地区に福岡市産学連携交流センターが4月に開所を迎え、大学と企業の共同研究による新技術・新産業の創出拠点となることが期待されています。

そこでOPACKでは、引き続きこれらの研究プロジェクトを活動の中心に据えて、企業向けの現地説明会や企業訪問活動を行い、九大学研都市で整備が進む企業立地用地への企業・研究所誘致を進めて参ります。

また、首都圏における誘致活動を強化するため、新たに東京在住の企業誘致コーディネーターを配置し、企業や国省庁の情報収集と企業訪問活動を日常化するとともに、19年度に引き続き東京セミナーを開催し、九州大学の研究成果や九大学研都市の魅力を企業や国省庁の皆様にも強くアピールし、研究所立地第1号を実現したいと考えています。

新しい芽が育つまちへ～ 新規地場企業・ベンチャー企業進出の促進

OPACKでは、九大学研都市を実証実験の場と捉えており、九州大学と地域、地元企業が連携した研究活動を支援しています。

具体的には、18年度から始まった九州大学／九州電力の「地中熱プロジェクト」のスケールアップを目指

すとともに、検討中のバイオマスプロジェクトを進め、食品廃棄物や廃油を活用する学研都市内システムを研究します。また、17年度から継続しているICカードプロジェクトについては「福岡経済情報基盤協議会」に参画しながら、学研都市における次世代情報ネットワークビジネスモデルの構築を目指します。

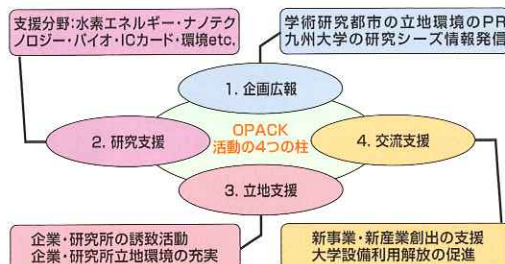
その他、4月にJR九大学研都市駅前に開所するOPACKの新事務所を活用して、産学連携・新事業創出に向けたOPACK交流会の開催やベンチャー企業支援などに取り組み、地域における新技術・新産業の展開を図りたいと考えています。

研究開発に便利なまちへ～ 企業・研究所立地環境の強化

学術研究都市としての研究・教育環境を充実し、研究開発に便利なまちをつくることも大切な取り組みです。OPACKでは全国の企業からの利用が進む「超高压電子顕微鏡」に続く大学設備の民間利用開放を推進する他、理化学機器などを取り扱う研究サポート企業の集積を促進するなど、研究環境の強化に取り組めます。

また、九州大学や産総研研究センターで働く外国人研究者の生活実態調査等を通じて、国際的環境形成に関する課題を検討するなど、学術研究都市の優れた住環境づくりにも取り組んで参ります。

九州大学学術研究都市では、福岡市産学連携交流センターが満室の状態の開所を迎え、超高压電子顕微鏡フォーラムの会員企業も9社に増加し、さらに研究資材を供給する企業の立地も始まるなど、研究所の立地ポテンシャルが高まっています。



研究・教育環境の充実と企業・研究所の集積により、世界に冠たる学術研究都市づくりを目指すOPACKの活動にご支援いただきまますよう心よりお願い申し上げます。



MJR九大学研都市駅前(新事務所は1Fテナント)遠景

OPACK事務所が移転します

OPACKでは、九州大学工学系の移転完了に伴い、伊都キャンパスとの連絡頻度が高まったこと、また、前原IC南リサーチパークや福岡市産学連携交流センターなどの整備に伴い、現地での誘致活動が活発化することなどから、伊都キャンパスと福岡天神との交通結節点に位置するJR九大学研都市駅前に、事務所を4月に移転します。

新事務所では、事務室の他、OPACK主催の会議・セミナーや九大学研都市に関係するセミナーなどを開催するスペースを設け、

関係者の皆様に、可能な限り広く利用開放する予定です。

新たな予感を感じさせるOPACKの活動について、ご期待ください。

福岡市産学連携交流センター 4月1日 新たな「知の拠点」 九大学研都市にオープン

4月1日、伊都キャンパスのメインゲート直近に「福岡市産学連携交流センター」がオープン。九州大学の知の集積とポテンシャルを活かし、産学連携の促進と新技術・新産

業の創出を目指す、学術研究都市の先導的施設として、福岡市が開設しました。

同センターの中核となる1階の基幹研究室(8室)にはナノテクノロジーなど最先端の研究シーズを持つ九州大学の研究室が入居。2階のレンタルラボ・オフィス(21室)は企業の研究開発拠点、産学連携等の研究プロジェクト拠点として利用されます。

すでに、1階、2階ともに満室となっており、今後、21世紀の世界・アジアの知の拠点として、その活動が注目されています。

また、4月16日(水)には、同センターの開所記念行事が予定されており、当日は2001年文化勲章、2007年京都賞を受賞された(独)宇宙航空研究開発機構顧問の井口洋夫氏による特別講演「私の物質探索の道程—有機半導体から生体半導体へ—」も行われます。



活動報告

「第3回九州大学学術研究都市情報交流セミナー」を開催

2月7日(木) ホテルセントラザ博多において、「有機ELが拓く新しいエレクトロニクスの世界」をテーマとして第3回「九州大学学術研究都市情報交流セミナー」を開催しました。

当日は、今回のテーマでもある話題の有機ELに興味をお持ちの方をはじめ、九州大学との産学連携や九大学研都市への進出に関心を寄せていただいている地元企業の方々など多くの皆様(関係者を除き総勢90名)にご来場いただき、講演では有機ELディスプレイの実演も行われ、盛況のうちに幕を閉じることができました。



今年度も第4回のセミナーの開催を予定しています。今回のセミナーでお寄せ頂きましたアンケートを基に、更に有益なセミナーにする所存ですので、ご来場くださいますようお願いいたします。

「九州大学学術研究都市」セミナーIN東京を開催

1月30日(水) グランドプリンスホテル新高輪において「九州大学学術研究都市」セミナーIN東京を開催しました。水素・燃料電池に関する取り組みを、産学官から講演してもらい、あわせて九州大学学術研究都市の立地環境を紹介しました。



東京でのセミナーを、OPACK単独で開催するのは初の試みでしたが、水素・燃料電池関連企業を中心に120名が参加され、

九州大学の水素エネルギー研究開発に対する期待が感じられました。

「現地説明会」を開催

2月5日(火)~6日(水)にかけて、「水素先端世界フォーラム」と連動した形で、企業の方に適地や伊都キャンパスを紹介する現地説明会を開催しました。



初日に、福岡県、福岡市、前原市、二丈町、志摩町が整備を進めているタウン・オン・キャンパス及びほたるの研究所等の立地用地の視察や九大や自治体、地元経済界と参加企業の懇談会を開催しました。

2日目には、伊都キャンパスの水素材料先端科学研究センターや超高压電子顕微鏡室を視察しました。

「OPACK交流会」を開催

1月23日(水)ハイネスホテル久留米において、福岡県工業技術センタークラブ・バイオ技術部会と共催でOPACK交流会を開催しました。



第1部では、九州大学バイオアーキテクチャーセンターの先生方より食品・バイオ関連企業にも応用可能な最先端の分析評価技術について講演いただいた他、OPA、CKの取り組みや福岡県工業技術センターの技術シーズについての紹介が行われました。

第2部では、九州大学知的財産本部の進行のもと、産学連携の取り組みについて、九州大学の先生も交えて参加者同士のフリートーキングによる活発な意見交換・意見発表の場を設けました。

この交流会を契機に新しい視点からの産学連携の展開が進むことを期待します。

「東京会議第6回総会」を開催

1月25日(金)ザ・プリンスさくらタワー東京において、東京会議委員、九州大学学術研究都市推進協議会代表委員(九経連会長、九大総長、福岡県知事)ほかを交えて、「九州大学学術研究都市構想促進東京会議」第6回総会を開催しました。



伊都キャンパスの進捗状況、OPACKの活動状況についての説明に対し、ご出席の皆様から、九州大学のプレゼンス強化や移転事業への取組み、企業誘致対策など、

今後の活動の指針となる貴重なご意見を頂きました。

「FC EXPO2008」に出展

2月27日(水)～29日(金)／3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)において開催された「FC EXPO2008」に出展しました。

この催しは、燃料電池業界世界最大の国際専門展であり、国内はもとより、世界各国の主要企業が一堂に出展し、国内海外から約2万5千人の専門家が来場しました。OPACKブースにも多くの来場者があり、伊都キャンパスにおける水素プロジェクトや九州大学学術研究都市の魅力を紹介するとともに、出展企業の技術・情報の収集を行いました。



お知らせ

超高圧電子顕微鏡フォーラム会員募集

九州大学超高圧電子顕微鏡室と連携して、「超高圧電子顕微鏡フォーラム」を平成17年12月9日に設置し、産学官交流・連携を促進するために、九州大学の電子顕微鏡を学外へ利用開放しています。

現在、会員企業は、(株)九電工、(株)東レリサーチセンター、西部ガス(株)、(株)コベルコ科研、京セラ(株)、帝人(株)、(株)北日本テクノス、旭化成(株)、ソニーセミコンダクタ九州(株)の9社です。

フォーラム会員の会費	
A会員 20万円/年	情報サービス コンサルティング
B会員 40万円/年	情報サービス コンサルティング + 教育・研修支援 <small>※見習生2名/コース 3名/コース以上は別途加算</small>
C会員 60万円/年	情報サービス コンサルティング + 教育・研修支援 <small>※見習生2名/コース 3名/コース以上は別途加算</small> + 研究・技術支援 <small>※見習生2名/コース 3名/コース以上は別途加算 ※研究・技術支援費用は別途加算</small>

フォーラム会員の特典内容	
1. 情報サービス	電子顕微鏡関連ニュース、技術・製品紹介、研究報告
2. コンサルティング	電子顕微鏡関連技術相談、研究者・技術者の紹介 他
3. 教育・研修支援	電子顕微鏡関連研修、e-ラーニング・遠隔研修用教材、シミュレータ、解析ソフト 他
4. 研究・技術支援	電子顕微鏡・各種機器利用開放・指導



会費は、A会員:20万円/年間(情報サービス、コンサルティング)、B会員:40万円/年間(情報サービス、コンサルティング、教育・研修支援)、C会員:60万円/年間(情報サービス、コンサルティング、教育・研修支援、研究・技術支援)になっています。

ご入会ご希望の方は、OPACKのホームページより、会員申込書をダウンロードしていただき、必要事項をご記入後、郵送してください。

研究シーズデータベース公開

今回ご紹介する「研究シーズデータベース」は、企業の研究・企画等の方々、自分の欲しい研究シーズを持っている先生方を探し出すシステムです。

システムの画面は、横軸が「エコロジー」から「エレクトロニクス」の11分野、縦軸が「企画」から「廃棄」の9つのライフサイクルのマトリックスになっています。

この中から探したい窓をクリックすると、数個～数十個のニーズワードが表示され、この中からワードを選択すると関連する先生方を探し出し、各先生の「研究者情報」にたどりつきます。

つまり、漠然と「この辺のシーズを持っている先生はいないかな?」というような場合にも対応できることが特徴です。

昨年末に、約10社の企業に試用してもらい、頂いたコメントを反映し、システムを改良しているところです。

今後、OPACKのHPIに正式に公開し、記者発表等のPRを経て、できれば、九大のHPIに掲載したいと思っております。

自治体からの報告

Report from municipality

二丈町

“協働”と“自立”の推進

本町のまちづくりのキーワードは、“協働”から“自立”です。“協働”とは、町民の皆さんと町とが、お互いに役割と責任を明確にし、協力しながら、まちづくりを行うこと。本町では、“協働”をさらに充実させ、自立の視点に立った取組を進めています。

その核となるものが「元気づくり事業」です。これは、地域住民自ら地域の将来計画を作り、住みよい地域を目指して、自ら実践するもの。

19年度からは、35の駐在区で一齐にその取組が展開されました。代表的なものとして、太閤道の調査・保存、シロウオ漁の復活、地域の紹介ビデオとマップの作成、元気づくり音頭の作成・CD化、他地域と連携した竹とうろうの設置、食育の推進などが挙げられます。

“食”の推進

“食”をまちづくりの核と位置づけ、19年1月に「食のまちづくり推進条例」「同推進プラン」を施行しました。

“食”で育む元気な体と豊かな心を目指し、家庭、学校、地域など社会のあらゆる場面で、町民の皆さん、行政、関係団体が連携したさまざまな取組を推進しています。

家庭では、早寝・早起き・朝ごはんの実践を推進するため、リーフレットを作成。また、子どもと一緒により料理を作るきっかけとするため、子どもでも作れるメニューのレシピを作成しました。小中学校では、

学習、栽培、収穫、調理という一連の体験を通じ、食をたいせつにする心を育成します。地域では、地元の食材を使ったふるさと料理を掘り起こしてレシピ化し、継承する取組を進めています。

九州大学と連携した「糸島まるごと農学校」の推進

本町は、18年6月に九州大学と糸島1市2町との協力協定を締結し、九州大学との連携を推進しています。

連携の1つとして、本町全域を“農”の学びの場とする「糸島まるごと農学校」事業に19年度から取り組んでいます。「糸島まるごと農学校」は、農業や食をテーマに、地元農業者、消費者、地域社会、行政、そして、九州大学が連携します。

19年11月、事業の本格的実施に先立つプレ・イベントとして、『糸島発・農業最前線』をテーマに、九州大学農学部の手研研究者と地元農業者のトーク&ディスカッション、玉ねぎの植付け体験実習を開催し、農業や食に関心をもった消費者など、約40人が参加しました。12月には、体験実習の2回目として、ジャガイモの植付けを実施。植え付けた野菜は、本年6月、プレ・イベント参加者たちにより収穫されます。



農業の体験実習

都市と大学探訪4 - 日本編 -

別府と

立命館アジア太平洋大学・大分大学

別府市は、立命館アジア太平洋大学、別府大学などがあり、全国でも留学生数の多い地域です。団体旅行の減少などによる観光客離れ・市街地衰退に歯止めをかけるため、別府八湯温泉



別府市全景

泊覧会などの市民主導の取組みが盛んであり、別府市も2005年よりONSENツーリズムを掲げ、温泉をはじめ地域資源を活用したまちづくりを推進しています。

立命館アジア太平洋大学は、別府市内から車で30分の距離にあり、82か国・地域から約2,300名の留学生と約3,000名の日本人学生が在籍しており、多くの学生が市内の祭りやコミュニティ活動への参加などを積極的に行っています。大学がはじめて組織として表に出るのではなく、地元住民の誘いなどで自然にまちの人たちと学生が交流を始める土壌が形成されています。2007年度には、文科省現代GP「学生力を活用した地域への還元教育プログラム」により、地域住民と二人

三脚で問題解決を図る取組みも始められています。

大分大学は、別府の都市づくりに古くから関わっており、別府市と別府商工会議所と3者で連携協定を締結し、温泉ツーリズム研究会や都市計画マスタープラン、国土利用計画、中心市街地活性化基本計画の

策定などに協力しています。近年では「湯けむり景観によるまちづくり」、「福祉のまちづくり」など学術的支援で連携を深めています。

大分県内における7つの大学等によって「地域連携研究コンソーシアム」をたちあげ、地域再生に活用できる大学の研究シーズをだしあい、地域課題に集団で取り組むメリットを前面にだした連携を始めています。



市民と学生のワークショップ

Webversion

【ファイルバージョン管理システム開発中】

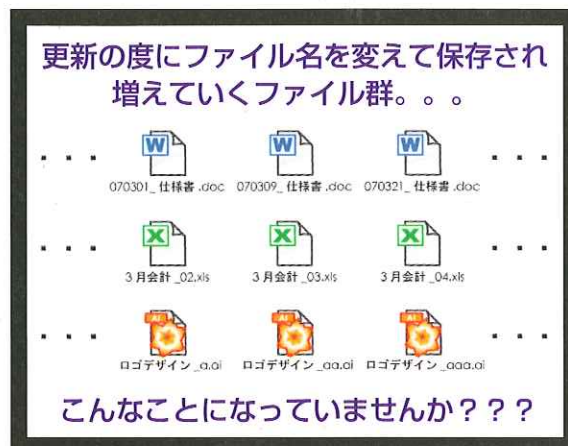
コンピューターで作成中の文書を間違っ
て上書き保存し、更新前の内容呼び出せな
くなって「しまった!」という経験はない
だろうか?

通常、プレゼンテーション資料や企画書、
社内管理書類などの重要書類は、加筆修
正を行いながら日付や番号を振った名前
の文書ファイルを複数残して更新履歴を
管理するケースが多い。しかし、更新を
重ねるごとにファイル数が増え続ける
ため、次第に管理が煩雑になってしまう。
ましてや複数の人による共同作業とな
れば、その状況はさらに悪化する。

現在Fusicが開発を進めているファイルバ
ージョン管理システム「Webversion」は、
ファイル数を増やさずに更新履歴を自動
で管理することが可能で、何度更新を重
ねても、あらゆる段階の内容を呼び出す
ことができるというものだ。ウェブブラウ
ザを経由したシステムで、ファイルをドラ
ッグ&ドロップするだけの簡単な操作
で自動的に履歴管理することができる。
加えて、いつ、誰が、どのような更新
またはアクセスしてダウンロードしたか
などを逐一把握できるという特長を持
っているため、最近注目を集める社内統
制や情報漏えい対策への効果も期待可
能。一方ウェブ経由のシステムで気にな
るのはセキュリティ上の問題だが、同社
では従来からウェブ上での顧客管理シ
ステムを販売している実績もあり、セ
キュリティに関しても十分な対策を施
している。

本企画・システムは、非常に高い評価
を受け、IPA(情報処理推進機構)の20
07年度中小ITベンチャー事業に採択さ
れた(応募件数100件以上に対し、日
本全国で10社のみ採択)。

コンピューター大手でファイル管理シ
ステムを市販しているところもあるが、
各端末にインストールするタイプで価
格は数百万円というレ



ベル。また機能が複雑すぎて使いにくく、ニ
ーズも特化しているなどの課題もあるとい
う。一方、「Webversion」は50万円以下と、
はるかにリーズナブルな価格で4月中にリ
リースする計画だ。

会社情報



株式会社Fusic
福岡市中央区大名2-11-13
古河大名ビル5F

設立:2003年 資本金:1,000万円
HP: <http://www.fusic.co.jp>
TEL:092-737-2616 FAX:092-737-2617

九州大学大学院システム情報科学府在学中に納
富貞嘉(代表取締役社長)と浜崎陽一郎(取締
役副社長)で設立。

事業内容

IT技術を基にしたソリューション開発事業・製品
開発・ITセキュリティ事業・顧客管理システム構築・
ITコンサルティング事業

研究室からこんにちは 《熱エネルギー変換工学研究室・森 英夫》



エネルギー問題と環境問題の解決のために

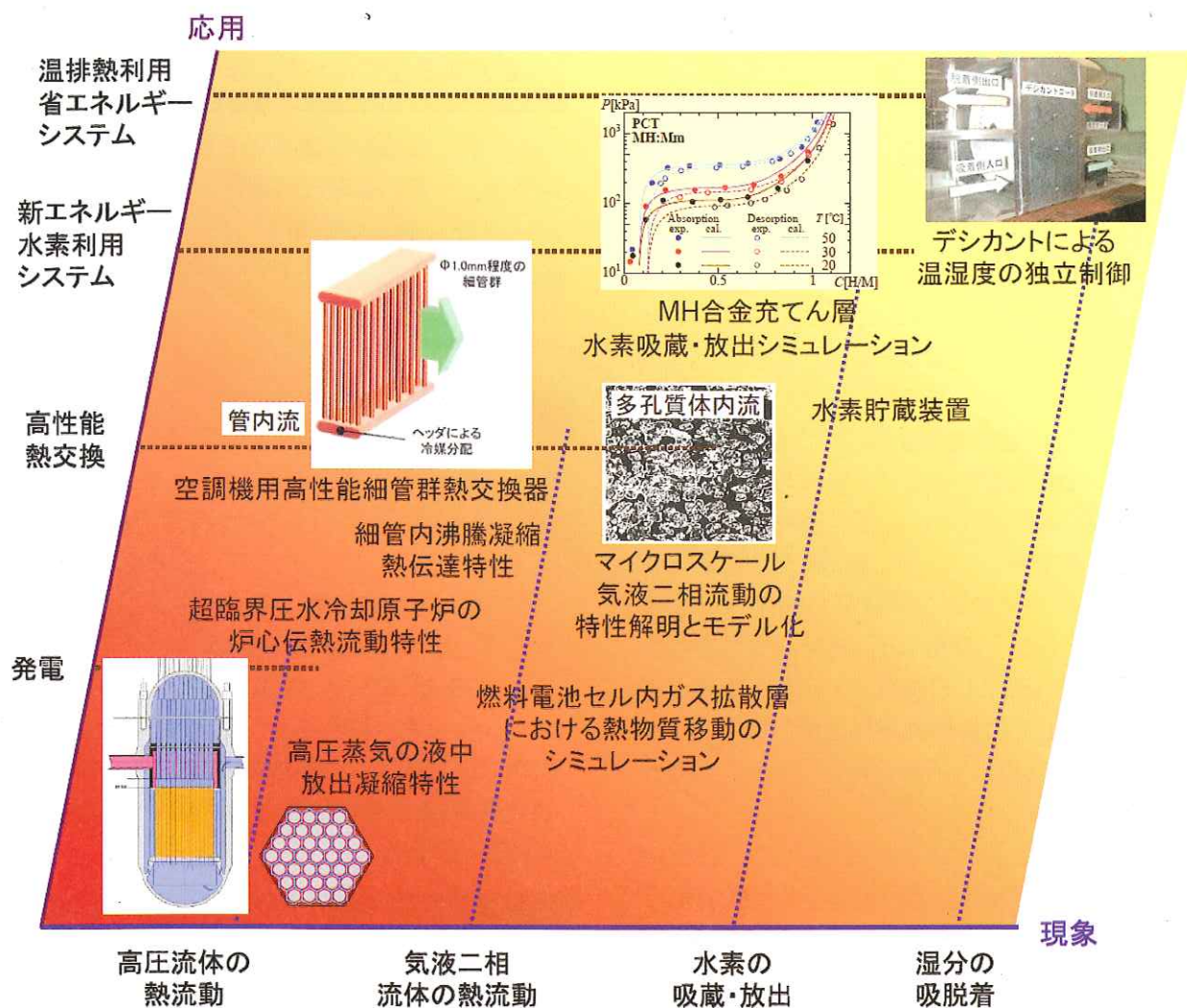
研究シーズ紹介

高圧流体・超臨界圧流体の熱伝達特性の解明と伝熱促進、冷媒の管内流熱伝達とその促進、熱エネルギー有効利用デシカント空調システムの開発、水素吸蔵合金を用いた水素貯蔵容器の熱・物質移動の促進、多孔質材料の有効熱伝導率の評価などの研究・技術開発と熱機器への応用。

研究室からのインフォメーション

熱エネルギー変換工学研究室では、動力変換システムや熱エネルギー利用機器における熱エネルギーの高度変換・伝達・利用技術に関する現象の解明と設計評価方法の確立を通して、今後予想されるエネルギー問題と環境問題を解決するための研究を行っています。

研究対象とする物理現象と工学的応用先



問い合わせ先 (研究室)

- ・ E-mail: mori@mech.kyushu-u.ac.jp
- ・ Homepage: <http://therme.mech.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>